

備前市施策評価シート

(平成20年度事業)

施策名 (小項目)	し尿処理	コード	作成者	役職	環境課長
		01-01-15		氏名	山本 健次
			電話		64-1821

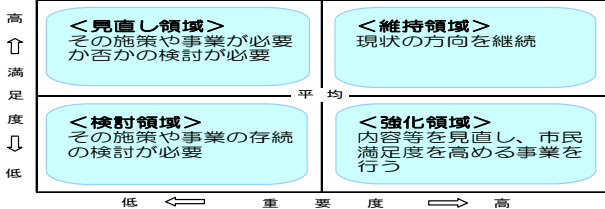
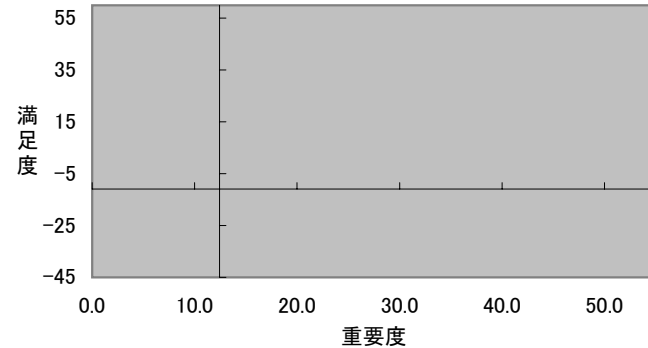
備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり

① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	し尿・浄化槽汚泥処理が必要な市民・市内事業者のために、許可業者が収集したし尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	下水道整備の普及に伴い、全体的な処理量が減少しているとともに、浄化槽汚泥の投入比率の増加等により処理対象物が希薄化しており、効率的な処理方法を検討する必要がある。また、施設の老朽化への対応策も必要である。
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> し尿処理施設の検討

④ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)				
満足度(%)				



調査結果に対するコメント、市民の反応等	下水道整備の普及に伴い処理量は減少しているが、浄化槽の汚泥処理は横ばいの状況となっている。市民の意見・要望は最近聞かれなくなった。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑤ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標・計算式・ベンチマークの説明	目標値	
		H18	H19	H20		H21	H22
成果指標 し尿投入量	目標	t	12,650	11,600	11,300	H21	11,200
	実績	t	13,198	11,694	11,363	H23	11,000
	達成率	%	104.3	100.8	100.6	H28	8,500
	ベンチマーク						
参考指標① 施設水道使用量	目標	m³	19,128	15,000	9,300	H21	9,000
	実績	m³	17,075	11,512	9,051	H23	9,000
	達成率	%	112.0	130.3	102.8	H28	9,000
	ベンチマーク						
参考指標②	目標					H21	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク						
参考指標③	目標					H21	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク						

⑥ 施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									施策への 貢献度 ☆☆☆☆☆ ~ ☆☆☆☆☆ ☆	経費の 性質 義務的 計画事業 その他	平成21年度 5月補正後 予算額 ※一財ベース		
				平成18年度			平成19年度			平成20年度							
				直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数					
1	し尿処理施設維持管理事業	C	し尿処理施設維持管理事業	単市	41,633	37,405		36,787	31,024	3,96	30,088	26,031	3,38	☆☆☆☆☆	その他	31,081	
			岡山県し尿処理施設協議会負担金	単市	30		30				15	107	0,01	☆☆	その他	15	
2	和気赤磐し尿処理施設一部事務組合負担金	B	和気赤磐し尿処理施設一部事務組合負担金	単市	15,542	225		17,685	268	0,03	16,947	0	0,00	☆☆☆	義務的	16,212	
					平成18年度			平成19年度			平成20年度					計	
					57,205	37,630	0,00	54,502	31,292	3,99	47,050	26,138	3,39				47,308

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
下水道課	公共下水道・合併処理浄化槽の早期整備	下水道の整備の普及状況により影響される
下水道課	下水道放流の実現	希釈度、水量などの許容検討

⑧ 施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 役割分担の妥当性 (市の関与、協働の可能性)	4	法令に基づき市が実施している。し尿及び浄化槽汚泥の収集業務は民間事業者が行っている。市民の協働は得られにくい事業であり、役割分担は妥当である。	4	市民生活に必要な事業であり市の関与は妥当である。
2 事業構成の妥当性 (実施手段)	3	妥当である。	3	生活環境保全のための事業であり事業構成は妥当である。
3 施策の有効性 (指標分析、評価年度・中長期の達成度)	4	し尿投入量はほぼ目標値に達している。水道使用量については、経費削減に取り組んだ成果が現れ大幅に減少している。必要な施策である。	4	成果指標もある程度達成しており、有効な施策である。
担当への指示 (今後の展開、事業見直し、新規事業創出等)		衛生センターは老朽化しており、更新時期が来ている。市民生活に支障をきたさないように年度計画を作成し、関係部署と調整すること。		施設が老朽化している中で、今後の方向性について協議を進める必要がある。
二次評価者コメント	役職 民生部長 氏名 山口 和夫		老朽化への対応とともに、効率的な処理方法について早急に検討する必要がある。	
		基本施策への貢献度		翌年度予算の方向性
		3中立		平均的な配分